2026年度 第6回（11月）北辰テスト対策 予想問題

国語（制限時間 50分・100点満点）

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（28点）

中学三年生のソウマは、来週に迫った三者面談のことで、仕事に忙しい父との間にすれ違いを感じていた。

「悪いが、今回の面談、母さんに行ってもらうことになった。」夕食の席で、父がそう言った。ソウマは箸を止めた。

①父は自分の受験にそれほど関心がないのかもしれない、という寂しさが、胸の奥に広がっていく。三者面談は、来週の金曜日に予定されていた。父の工場は、ちょうどその時期、納期が重なって忙しいらしかった。

母はいつも、父の分まで丁寧にメモを取り、帰ってから説明してくれていた。だがソウマは、父が一度も面談に来たことがないのが、ずっと心に引っかかっていた。

夕食が終わり、二人だけがダイニングに残った。父は湯呑みを置きながら、ソウマの方を見ずに言った。「②お前、一対一で話すとなると急に黙るよな。前はもっと自分から話してきてたのに。」

「別に、気にしてなんかいない。」ソウマは、そう言いながらも、自分の声が揺れているのがわかった。実際、志望校を決める面談に父が一度も来ないことに、わずかな寂しさがあることに、自分でも気づいていた。

父は、少し黙ったあとで、ぽつりと言った。「③俺、学校のことはよくわからないから、お前の邪魔になるんじゃないかって、最近思うようになったんだ。」それから、少し照れくさそうに付け加えた。「でも、お前のことは応援したいと思ってるんだぞ。」

ソウマは、その言葉に驚いた。父はいつも堂々と仕事の話をしていて、自分が邪魔になるかもしれないと考えているなんて、少しも想像していなかった。

「俺は別に、一人で決めたいとかじゃないけどな。」ソウマは、そう返しながらも、さっきまでの重さが少し軽くなっているのに気づいた。④肩から、すとんと力が抜けていくのがわかった。

「……そっか。」父の声から、さっきまでの硬さが少し抜けていた。「面談には行けないけど、帰ったら、ちゃんと話を聞かせてくれ。」

「わかった。」ソウマは、湯呑みをもう一度両手で包んだ。「今度は、ちゃんと自分の考え、話すから。」

翌朝、ソウマは机の引き出しから志望校のパンフレットを取り出し、父の分もコピーしておくことにした。⑤学校へ向かう道、ソウマの足は、いつもより弾んでいた。

問1 ①「父は自分の受験にそれほど関心がないのかもしれない、という寂しさが、胸の奥に広がっていく」とありますが、このときのソウマの様子を説明した文として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア父が仕事を理由に面談を休むことに腹を立て、今後口をきかないと決めている。

イ面談に父が来られないと知り、自分の受験に父があまり関心を持っていないように思えて、寂しさを感じている。

ウ母がいつも面談に来ることに不満を感じ、父にも来てほしいと強く要求している。

エ自分の志望校選びに自信がなく、誰にも相談できないことに不安を感じている。

問2 ②「お前、一対一で話すとなると急に黙るよな。前はもっと自分から話してきてたのに。」とありますが、この言葉を聞いたソウマの様子を説明した文として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア父の言葉に納得し、もう面談のことは気にしないと決めている。

イ父の言葉に寂しさを感じつつも、素直には認めたくなくて、言葉に詰まっている。

ウ父に見捨てられたと感じ、激しく言い返そうとしている。

エ父の言葉は正しいと思い、気にせず聞き流そうとしている。

問3 ③「俺、学校のことはよくわからないから、お前の邪魔になるんじゃないかって、最近思うようになったんだ。」とありますが、父はどのような思いでこの言葉を言いましたか。次のようにまとめるとき、空欄にあてはまる内容を、負担、応援の二つの言葉を使って、二十五字以上、三十五字以内で書きなさい。ただし、二つの言葉を使う順序は問いません。（6点）

問4 ④「肩から、すとんと力が抜けていくのがわかった」とありますが、このときのソウマの心情を説明した文として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア父が面談に来ないと決まったことで、自分の責任がなくなったと感じている。

イ父は無関心だったのではなく、自分の邪魔にならないよう気づかっていたのだと知り、気持ちが軽くなっている。

ウ父に強く言い返せたことに満足し、優越感を覚えている。

エ父が気持ちを打ち明けてくれたことに安心し、これ以上話し合う必要がないと感じている。

問5 ⑤「学校へ向かう道、ソウマの足は、いつもより弾んでいた」とありますが、このときのソウマの心情を説明した文として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（5点）

ア父が面談に来ることになったわけではないが、気持ちを伝え合えたことに手応えを感じている。

イもう受験のことを一人で考える必要がなくなったと感じ、気が抜けている。

ウ父との話し合いに完全に勝ったという確信から、誇らしい気持ちになっている。

エ父に励まされたことで、今後は自分で決めなくてもよいと安心している。

問6 本文の内容や表現について述べた文として適切でないものを、次のア～オの中からすべて選び、その記号を答えなさい。（5点）

ア ソウマと父、互いの本音を、夕食後の会話を通して描く構成になっている。

イ 「胸の奥に広がっていく」という表現によって、ソウマの寂しさが身体感覚として描かれている。

ウ 本文には会話文がなく、地の文の説明だけで二人の関係の変化が描かれている。

エ 「一人で決めたいとかじゃないけどな」というソウマの言葉と、「ちゃんと話を聞かせてくれ」という父の言葉が対応し、二人の関係の変化を印象づけている。

オ 本文は、受験が終わった後の二人の様子だけを描いて構成されている。

2 次の各問いに答えなさい。（28点）

問1 ⑴ 次の――部の漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に改めなさい。（各2点）

卒業式は厳粛な雰囲気の中で行われた。（読み）

問1 ⑵（各2点） 志望校合格を目指して励む。（読み）

問1 ⑶（各2点） 新しい設備を導入してコウリツを上げる。（書き）

問1 ⑷（各2点） 相手の立場を考えてハンダンする。（書き）

問2 ⑴ 次の⑴・⑵の――部のかたかなを漢字に表したとき、その漢字と同じ漢字を含むものを、あとのア～エの中からそれぞれ一つ選び、その記号を答えなさい。（各2点）

⑴ クラスの意見をトウゴウする。

ア 会議でトウロンする。
イ 新しいトウシを始める。
ウ 電車がトウチャクする。
エ 意見がトウイツされる。

問2 ⑵（各2点） ⑵ 二つの案をヒカクする。

ア 作品をヒヒョウする。
イ 事件のヒミツを探る。
ウ 新商品のヒリツを調べる。
エ 計画のヒナンを受ける。

問3 次のア～エの――部の「の」の中から、他と性質の異なるものを一つ選び、その記号を答えなさい。（3点）

ア これはわたしの辞書だ。
イ 大きいのを選んだ。
ウ 先生の机の上に本がある。
エ 友人の自転車を借りる。

問4 次のア～エの――部の「れる・られる」の中から、他と性質の異なるものを一つ選び、その記号を答えなさい。（3点）

ア妹に秘密を知られる。
イ朝早く起きられる。
ウ先生にほめられる。
エ友人にからかわれる。

問5 次の文の空欄にあてはまることわざとして最も適切なものを、あとのア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（3点）

一人では思いつかなかった解決策も、親子で話し合ってみると、意外な方法が見つかった。これを見て、祖母が「［　　］だね」とつぶやいた。

ア三人寄れば文殊の知恵
イ蒔かぬ種は生えぬ
ウ二度あることは三度ある
エ火のない所に煙は立たぬ

問6 次の文の空欄にあてはまる慣用句として最も適切なものを、あとのア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（2点）

今まで言えなかった本当の気持ちを、ようやく父と「［　　］」ことができた。

ア腹を割って話す
イ図に乗る
ウ肩を落とす
エ腰が重い

問7⑴ 生徒会役員会では、地域清掃活動の進め方について話し合っています。次の【話し合いの様子】を読み、あとの⑴・⑵に答えなさい。

【話し合いの様子】

会長「今日は地域清掃活動の進め方について話し合います。まず、佐藤さんから提案をお願いします。」

佐藤「はい。わたしは、学校の周りのごみを拾いながら、地域の方にあいさつをする活動を提案します。」

木村「あいさつだけでなく、ごみの分別方法も伝えた方がいいと思うよ。」

佐藤「たしかにそうですね。地域の方には、分別の仕方も〔　Ⅰ　〕つもりです。」

⑴ 【話し合いの様子】の空欄〔Ⅰ〕にあてはまる、地域の方に対する言葉として最も適切な敬語を、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（3点）

アお伝えする
イ伝えられる
ウおっしゃる
エ伝えてくださる

問7⑵ ⑵ この話し合いで、木村さんはどのような役割を果たしていますか。その説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（2点）

ア佐藤さんの提案に対して、より地域に役立つための視点（分別の説明）を加えている。

イ佐藤さんの提案をそのまま否定し、まったく別の企画を提案している。

ウ佐藤さんの発言を無視して、自分の意見だけを一方的に述べている。

エ話し合いを早く終わらせるために、強引に結論を出している。

3 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（28点）

「自動翻訳機」と聞くと、これさえあれば外国語を学ぶ必要はない、と考える人が多いだろう。実際、スマートフォンの翻訳機能は、観光や日常会話では十分に役立つ場面が増えている。

ところが、言語学の視点から見ると、自動翻訳機にはまだ届かない領域がある。たとえば、ことわざや比喩表現は、単語を一つずつ置き換えるだけでは、もとの意味やニュアンスが伝わらないことが多い。

①さらに、同じ言葉でも、場面や相手との関係によって、選ぶべき表現が変わることがある。たとえば、目上の人に対する言い方と、親しい友人に対する言い方では、同じ内容でも言葉の選び方がまったく異なる。

翻訳機が示す訳は、あくまで一つの可能性にすぎない。②その訳をそのまま使ってしまうと、意図しない失礼な言い方になったり、逆に親しみが伝わらない言い方になったりすることがある。

もちろん、自動翻訳機が無意味だという話ではない。単語の意味を確認したり、大まかな内容をつかんだりする場面では、翻訳機は大きな助けになる。③問題は、「翻訳機があれば言葉を学ぶ必要はない」という単純な見方で終わらせてしまうことだ。

近年、翻訳機の訳を参考にしながら、自分でも言葉の背景にある文化や習慣を調べる学び方を取り入れる授業も増えている。これは、翻訳機を敵としてではなく、言葉を学ぶための道具の一つとして付き合っていこうとする試みである。

④技術に任せれば言葉の壁はなくなる、という発想だけでは、見えてこないものがある。言葉を学ぶことは、訳を知ることだけでなく、その言葉を使う人々の考え方や関係の築き方を知ることでもあるのである。

「自動翻訳機」という便利な技術が広がっている今だからこそ、言葉そのものを学ぶ意味を見直すことは、これからの社会を生きるための、小さな、しかし確かな一歩になるはずだ。

問1 ①「さらに、同じ言葉でも、場面や相手との関係によって、選ぶべき表現が変わることがある」とありますが、これはどのようなことを表していますか。最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア言葉の意味は、国によってまったく異なり、翻訳機では一切理解できないということ。

イ相手との関係や場面に応じて、同じ内容でも言葉の選び方を変える必要があるということ。

ウ翻訳機の性能が上がれば、場面による言葉の違いは完全になくなるということ。

エ目上の人と話すときは、できるだけ短い言葉を使うべきだということ。

問2 ②「その訳をそのまま使ってしまうと、意図しない失礼な言い方になったり、逆に親しみが伝わらない言い方になったりすることがある」とありますが、このことから筆者が述べている、翻訳機の訳をそのまま使うことの問題点として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア 翻訳機の訳をそのまま使うと、場面や相手との関係にふさわしくない言い方になってしまうことがあること。

イ 翻訳機を使うと、会話の内容を正確に理解できなくなり、誤解が生まれること。

ウ 翻訳機を使うと、話す速度が遅くなり、会話が成立しなくなること。

エ 翻訳機があることで、外国語を学ぶ人の数が減り、語学教育自体がなくなること。

問3 ③「問題は、『翻訳機があれば言葉を学ぶ必要はない』という単純な見方で終わらせてしまうことだ」とありますが、筆者はどういうことを問題だと述べていますか。次のようにまとめるとき、空欄にあてはまる内容を、文化、背景の二つの言葉を使って、二十五字以上、三十五字以内で書きなさい。ただし、二つの言葉を使う順序は問いません。（6点）

問4 ④「技術に任せれば言葉の壁はなくなる、という発想だけでは、見えてこないものがある」とありますが、この発想では見えてこないものとは何ですか。最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア 言葉を学ぶことが、訳を知ることだけでなく、その言葉を使う人々の考え方や関係の築き方を知ることでもあるという側面。

イ 翻訳機の処理速度が、今後さらに向上していくという事実。

ウ 翻訳機の訳を参考にする学び方は、授業では好まれないということ。

エ 翻訳機を使えば、言葉を使う人々の考え方まで自然に理解できるようになるということ。

問5 本文の構成や表現について述べた文として適切でないものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（5点）

ア 「自動翻訳機」に対する一般的な思い込みを示し、それをくつがえす形で論を展開している。

イ 実際に行われた翻訳精度の国際比較調査の統計をもとに、主張を補強している。

ウ ことわざや目上・友人への言い方の違いの例を挙げて、翻訳機が届かない領域をわかりやすく説明している。

エ 翻訳機が不要だと述べているのではなく、言葉を学ぶ意味を見直すことの大切さを述べている。

問6 本文の内容として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（5点）

ア自動翻訳機を使えば、どんな場面でも誤解のない会話ができる。

イ自動翻訳機は便利な道具であるが、言葉を学ぶことには、訳を知ることだけでは得られない価値がある。

ウ自動翻訳機の精度が上がれば、言葉を学ぶことはまったく不要になる。

エ自動翻訳機の性能を上げるためには、外国語教育を減らす必要がある。

4 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（カッコ内は口語訳です。）（16点）

昔、ある国に、戦に長じたる武将ありけり。名を次郎太と言ふ。度々の合戦に功を立て、主君より厚く信頼せられけり。（昔、ある国に、戦に優れた武将がいた。名を次郎太といった。度々の合戦で功績を立て、主君から厚く信頼されていた。）

ある年の戦に、次郎太が率ゐる軍、敵に攻め込まれ、味方の一隊、取り残されたることあり。その中に、年若き家来、太郎次と言ふ者ありけり。（ある年の戦で、次郎太が率いる軍は敵に攻め込まれ、味方の一隊が取り残されることがあった。その中に、年若い家来で、太郎次という者がいた。）

次郎太、これを聞きて、①いかにもして太郎次を救はんと思ひて、引き返すべしと命じたり。側にありし家臣、「②今引き返さば、我が軍、全滅の恐れあり。太郎次一人のために、多くの兵を失ふは、いかがなものか」と諫めけり。（次郎太は、これを聞いて、何とかして太郎次を救おうと思って、引き返すべきだと命じた。側にいた家臣は、「今引き返したら、我が軍は全滅の恐れがある。太郎次一人のために、多くの兵を失うのは、いかがなものか」と忠告した。）

次郎太、答へて言はく、「③一人を見捨てて進む軍に、まことの力はあらじ。太郎次を救ひてこそ、残る兵も、心を一つにして戦ふべし」と語りて、自ら少数の兵を率ゐて、敵中に引き返しぬ。（次郎太は、答えて言った。「一人を見捨てて進む軍に、本当の力はないだろう。太郎次を救うことによってこそ、残る兵も、心を一つにして戦うことができるはずだ」と語って、自ら少数の兵を率いて、敵の中に引き返した。）

かくして、次郎太は、太郎次を救ひ出し、軍を立て直して、ついに敵を退けたり。残る兵、これを見て、いよいよ次郎太に従ふ心、固くなりにけり。（こうして、次郎太は、太郎次を救い出し、軍を立て直して、ついに敵を退けた。残る兵は、これを見て、いよいよ次郎太に従う心が、固くなった。）

④一人を助くる心なくして、多くを守ることはかなはず。小さきことを軽んずる者は、大きなることをも成し得ず、と語り伝へたり。（一人を助ける心がなくては、多くを守ることはできない。小さなことを軽んじる者は、大きなことも成し遂げることができない、と語り伝えられている。）

（注）次郎太（じろうた）……人名。この話に出てくる武将。　太郎次（たろうじ）……人名。次郎太の家来。　諫める（いさめる）……目上の人に対して、よくないと思うことをやめるよう忠告すること。

問1 ①「いかにもして太郎次を救はんと思ひて」を、現代仮名遣いに直して、すべてひらがなで書きなさい。（4点）

問2 ②「『今引き返さば、我が軍、全滅の恐れあり。太郎次一人のために、多くの兵を失ふは、いかがなものか』と諫めけり」とありますが、家臣がこのように諫めたのはなぜですか。その理由として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア太郎次が日頃から軍の規則を守らず、仲間から信頼されていなかったから。
イ一人を救うために引き返すと、軍全体が危険にさらされると考えたから。
ウ次郎太の判断力に疑いを持ち、主君に代わって指揮を執ろうとしたから。
エ敵の数が少ないと見て、引き返す必要はないと油断していたから。

問3 次郎太が③のように判断した理由を次のようにまとめるとき、空欄にあてはまる内容を、現代語で十字以上、二十字以内で書きなさい。（4点）

「一人を見捨てる軍では、［　10字～20字　］ので、本当の力を出せないと考えたため。」

問4 ④の部分で語り伝えられている教えとして最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア大きなことを成し遂げるためには、小さなことは気にせず進むべきである。
イ一人を助ける心がなければ、多くを守ることはできず、小さなことを軽んじる者は大きなことも成し遂げられない。
ウ戦に勝つためには、兵の数を何よりも優先して考えるべきである。
エ家臣の意見には従わず、常に自分の判断だけを信じるべきである。

（以上で問題は終わりです。）